

様々なニーズに応えた森林づくりを推進します。

取組例

① 第四次流域管理推進アクションプログラムの取組

流域管理システムを推進していくためには、民有林関係者等と連携し各流域の特性に応じて、重点的かつきめ細かな取組を行っていくことが重要です。アクションプログラムについては、平成一三年度より三次にわたり実施してきたところですが、平成二二年四月以降三カ年の取組を定めた第四次アクションプログラムを新たに策定しました。

平成二二年度はこの新たなアクションプログラムに基づき、システム販売等による計画的な木材供給の推進、森林の共同施業団地設定による森林施業の効率化・共通化等の取組、下流住民等を対象とした林業体験活動等、流域の特性を踏まえた多様な取組につ

いて各流域ごとに民国連携して推進していくこととしていきます。

② 緑の島四国の森林共生プロジェクト

四国の面積のうち森林は約七五%を占めています。とくにスギ・ヒノキの人工林率が高く、戦後に植林された人工林資源は利用可能な段階に入りつつあります。その資源を有効活用し、森林・林業の活性化を図るとともに森林資源の持続的な循環利用を行うことが、低炭素社会へ向けた取組としても重要になっていきます。

四国森林管理局では、四国四県や四国地方整備局等と連携を図りながら、四国圏広域地方計画協議会において取組状況の公表や地域材利用促進協議会等の機会を通じ、四国産木材の利用拡大に向けた検討や「森林・林業再生プラン」を踏まえた、森林の団地化、

路網整備、間伐材の有効利用等について検討を行い、森林・林業の再生に向けた体制づくりを推進します。



四国の森づくりフォーラム in とくしま

③ 森林環境教育の充実

森林環境教育の推進を図るため、教育関係機関等多様な主体と連携しつつ、林業体験や森林教室等の体験活動、指導者の派遣や紹介等に取り組んでいます。

平成二二年度においても、学校等における森林環境教育の取組の拡大に資するため、森林環境教育プログラムの改良や工石山(高知県)、飯野山(香川県)等の体験学習のた

めのフィールド整備に取り組めます。

「春の緑の街頭募金」  
皆さんの善意を森づくりに  
有効活用します。  
(指導普及課)



(社)高知県森と緑の会主催による「春の緑の街頭募金」が、四月十八日、高知市の中央公園及び帯屋町筋で行われました。

出発式の後、篠田局長、斎藤計画部長をはじめ、ボランティアスタッフが、「緑の募金にご協力をお願いします」と、大きな声で道行く人々に募金を呼びかけました。当日は、初夏のような天候で、帯屋町筋には普段以上に人通りが多い中、子どもからお年寄りまで多くの方が足を止め、たくさんの方々が寄せられました。

春の緑の募金活動は、「緑の募金でふせこう地球温暖化」をスローガンに、二月一五日

から五月三十一日まで行われており、いただいた募金は、水源の森林づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用することになっておりますので、皆様のご協力をお願いします。

また本年は、生物多様性条約第十回締約国会議が十月に名古屋で開催されることとなっており、国民の森林づくりへの関心が高まるものと思われ、国民運動として一層の進展が期待されています。



シリーズ108

# 地域の声

「森林とともに伸びる子どもたちを育てるために」

高知県香美市立

大栃小学校

大栃小学校のある物部町は、「面積」二九・一二二km<sup>2</sup>、その九六％を森林が占める山間地域です。森林の七〇％がスギやヒノキ、ケヤキやクヌギなどの人工林であり、林業は古くから地域の生産基盤を担ってきました。

児童がふるさとに愛情と誇りを持ち「生きる力」を身につけるためには、「森林や林業にかかわる学習」が不可

欠です。そこで、本校では、各教科や領域の中で、また、生活科や総合的な学習の時間の中心課題として、森林環境教育に取り組んでいます。そのため教材の提供や講師として、高知中部森林管理署や物部森林組合を始めとする地域の方々に、また、活動の場として「遊々の森」の提供等、多大な協力をいただいています。

境教育に取り組んで提供や講師として、高知中部森林管理署や物部森林組合を始めとする地域の方々に、また、活動の場として「遊々の森」の提供等、多大な協力をいただいています。



「四国山の日賞 受賞」  
筆者(右側) 北村祥校長先生

森林学習は、「森とつながる学習」(学校や宿泊訓練での森林教室、高知県森林総合センター等での学習)と「森での体験学習」(遊々の森等での

の現地学習)で構成しています。六年間で系統的に学習を積み上げ、豊かな自然に親しみ、森林と共にある生活と産業を学び、森林を通して人・物・事とかわる力の育成をめざしています。

森とつながる学習では「茶つみ・製茶」「ユズつみ・搾り」「木のおもちや昔遊び」「シイタケの種駒打ち」「樹木名板の取り付け(校内)」「森林学習(森林のはたらき、森と川と海のつながり)」「木工教室」「高知中部森林管理署職場見学」、森での体験学習では「遊々の森ウォーキング」「巣箱かけ」「ネイチャーゲーム」「森の昔遊び」「木の名前を覚えよう」「植樹・間伐体験」等を行っています。

森とつながる学習では「茶つみ・製茶」「ユズつみ・搾り」「木のおもちや昔遊び」「シイタケの種駒打ち」「樹木名板の取り付け(校内)」「森林学習(森林のはたらき、森と川と海のつながり)」「木工教室」「高知中部森林管理署職場見学」、森での体験学習では「遊々の森ウォーキング」「巣箱かけ」「ネイチャーゲーム」「森の昔遊び」「木の名前を覚えよう」「植樹・間伐体験」等を行っています。



「遊々の森」での巣箱掛け

遊々の森では、毎年、五年生児童が木工教室で製作した巣箱を、木に掛けています。児童は、「私たちが鳥を呼び込んで、楽しい山にしていきたい。鳥がたくさんいる山は、とてもいい山だと思います。」と感想を述べています。

遊々の森では、毎年、五年生児童が木工教室で製作した巣箱を、木に掛けています。児童は、「私たちが鳥を呼び込んで、楽しい山にしていきたい。鳥がたくさんいる山は、とてもいい山だと思います。」と感想を述べています。

間伐体験では、「良い木が元気に育ちます。やってみて大変だったけれど、やる人がいなくなると山は荒れてしまいます。今後は、地域の植林・間伐作業などに、みんなで誘い合って参加したいと思います。」森林のはたらきでは、「地球温暖化防止に役立つていること、水源としてのほたらきや土砂の流出を防ぐことなどを学習しました。運動場のようなはだかの土は、水を通さず、土砂崩れが起きやすいことがわかりました。山でこんなことが起こったら、大変だと思いました。」

平成二二年度には、「学校林・遊々の森全国子どもサミット」において、取組を発表する貴重な機会をいただきました。五・六年生の児童は、これまでの学習で得たものを次のように発信しました。

平成二二年度には、「学校林・遊々の森全国子どもサミット」において、取組を発表する貴重な機会をいただきました。五・六年生の児童は、これまでの学習で得たものを次のように発信しました。



「全国子どもサミット」

「森林学習や体験を通して、私たちは、たくさんの人と出会い、興味あるお話や専門的なお話、考えや思いを聞くことができました。森林の大切さを実感し、物部の大切な産業である林業に関心をもつことができました。今、私たちは、これらの学習をもとにして、地域での森林環境に関

する行事に参加しています。

「鹿の食害が広がっている三嶺で、その実態を調査し防護ネット柵を張る取組」や「高知子ども森林インストラクター養成講座」などです。学校外でも視野を広げながら、かけがえない自然や森林を守り、引き継ぐ力を身につけていきたいと思えます。」

新教育課程の全面実施が目前に迫っています。これまでの指導内容を改めて振り返り、児童が地域に学び、更には、より広い視野をもって自らの生き方を考えることのできる学習へと充実・発展させていきたいと思えます。

「香美市立大栃小学校」は、平成二〇年度「四国山の日賞」（森林環境教育推進分野）を受賞されました。

## 各地のたより

土佐堂ヶ森で森林教室  
「春の遠足」に合わせて  
「ふれあいセンター」

四月十三日、新入生を迎え、春の遠足を兼ねた四万十市立津野川小学校の全校児童十九名が、「土佐堂ヶ森」で、森の中で遊び、木に触れ、自然に親しむ森林体験学習を行いました。

始めに、自然の中に隠された人工物を探すカモフラージュというネイチャーゲームを実施しました。ふれあいセンター職員が、ロープを張ってコースを決め、コース沿いにカエルやへびやカブトムシ等のおもちゃや紅葉したモミジの造花などを置きました。児童一人ずつゆっくり歩きながら、地面や木の枝幹などに目をこらし、コース沿いに隠れた人工物を見つ

けていきます。全員が終えてから、答え合わせをしました。が、どうしても一個だけ見つけられなかったのは地表の落ち葉と同化していたトカゲでした。

昼食後、簡易なブランコを製作して、みんながブランコを楽しんだ後、頂上付近にある樹木に一人一人が樹名板を取り付けし、取り付けた樹木の前で一人一人が記念写真を撮って、生徒達は皆大喜びでした。



何個見付けた？

県境をまたぎシカ食害  
防護ネットを設置  
（高知中部森林管理署）

四月二十五日、三嶺の頂上

がすぐ近くに見える白髪分岐周辺で、獣害防護ネットの設置を行いました。

作業には、当署と徳島森林管理署、香美市、香南市、南国市、高知市及び徳島県などのボランティアの総勢百〇七名があたりました。

参加者は、高知県と徳島県の県境、標高千七百メートルの稜線で、ササ原を防護ネット柵で囲い込んだり、モミヤカエデ類など、ニホンジカの被害を受けやすい樹木に一本一本丁寧にラス巻きを行いました。

初めて参加した方も、経験者の指導で、すぐ手順を覚え、作業は順調に進みました。おかげで、三箇所の柵の設置と樹齢二百年を超えるモミの木など三八〇本に、ラス巻きを行うことができました。

この地域は、今年の冬にニホンジカの食害を受け、ササの葉が一面無くなってしま

った所です。しかし、根茎部分はまだ生きていると考えられるため、ネット柵ができたことにより、早期再生が期待できます。

今回の作業で、希少植物などの保護のため周囲をネットで囲む防護柵は、牧野植物園が管理する五箇所を含めて三四箇所となりました。また、ラス巻きの本数は、三千五百本を超えました。

この日は快晴で、作業に参加した皆さんは、三嶺山系の雄大な景色を満喫することもできました。三嶺に登られた時には、登山道近くの柵にも、是非目を留めて見てください。



ニホンジカの食害を防ぐネット柵を設置